



17号

平成31年2月1日発行

雲南地区保護司会
 (事務局:雲南市木次町木次1012番地1)
 <TEL・FAX(0854)42-3550>
 題字揮毫:渡部幸子 元保護司
 印刷:出雲総合印刷企画社



年頭のごあいさつ

松江保護観察所 所長 加藤 雅之

雲南地区保護司会の皆様におかれましては、

平素から更生保護事業に多大な御理解と御支援を賜っており、心から感謝申し上げます。あわせて、この度、広報誌「こころ十七号」が発刊されることをお喜び申し上げます。

昨年中は、各地で震災や風水害が重なり、異常気象に悩まされる一年でしたが、本年は良き一年になることをお祈りいたします。

さて、本年は更生保護制度が施行され、七十周年という節目の年に当たります。この記念すべき年を迎えるに当たりましては、平素から更生保護関係者により、犯罪者・非行少年に対する昼夜を分かたぬ御指導・御支援が続けられるとともに、明るい社会を実現すべく日々取り組まれる犯罪予防活動があつてこそ、今の更生保護制度の礎が築かれるに至ったものと考えます。そして、そのような更生保護制度の礎は、皆さんお一人お一人の思いと様々な工夫の積み重ねによって効果的に実現されるものと考えま

す。過日、雲南市で行われた東部地区保護司会

代表者会議において株式会社出雲たかはしの高橋会長(協力雇用主会会長)から有意義な御講演を賜るとともに、人形劇や腹話術を用いたすばらしい犯罪予防活動を直に拝見する機会に恵

まれました。雲南地区において、力強く更生保護制度を支えていただいている生き生きとした活動と素晴らしい人財の力に圧倒され、大変心強く感じました。雲南地区の更生保護関係者の皆様の更なる御活躍と御健勝を祈念いたします。

す。

表紙の写真

深い雪に耐えながら、ひっそりと黄色い花を咲かせる蛸梅(とうばい)がありました。蛸梅はひかえめで奥ゆかしい姿から、花言葉は「ゆかしさ」とよばれ親しまれています。

撮影場所 雲南市木次町湯村漆仁(しつに)地内

第68回社会を明るくする運動

作文コンテスト入賞作品

山陰中央新報社賞

小学校の部

わたしの願い

奥出雲町立亀高小学校 五年 若 槻 美 桜

わたしは、テレビで女の子が殺害されていき
されたニュースを見ました。そのニュースを見
たとき、「ひどい。かわいそう。」

と思いました。それと同時に、事件を起こした
人は、どうしてこんなことをしてしまったのだ
ろうと思いました。何かストレスがあったのか
な。もしかしたら、その人自身に何かよくない
事が起きたり、何か意地悪をされていたりし
て、心に傷を負っていたのかもしれない。こ
うして考えている内には、ただ、その人を責める
だけではないのではないかと思ってきました。ま
た、もし、責めるだけだと、その人の居場所が
なくなると、ストレスがたまったりして、また
別の悪いことをしてしまう、という繰り返しに
なってしまうのではないかと、思いました。だ
から、悪いことをした人であっても、その人の
居場所ができて、安心して生活が送れるように

なるといいと思いました。

そのためには、みんなが思いやりや人を気づ
かう気持ちを持つといいと思います。みんなが
そういう気持ちを持つと、日本という国が平和
で活気あふれる国になるんじゃないかと思いま
す。

私も、以前、友達に無視されたり、こしょこ
しょ話をされたりして、(自分のことを言っ
ているのかな。)と心配になったことが少しあり
ました。けれど、そんな時は深く考えずに気持
ちを切り替えるようにしています。わたしが、
こんなふうを考えるようになったのは、私が相
談したとき「大丈夫だよ。」と言って励まして
くれた家族がいたからです。その時、「この世
の中には、以前悪口を言われていた人や心がモ
ヤモヤしている人もいるからね。」と、教えて
もらいました。「困ったときには周りの人に相

談してね。」と、アドバイスをしてくれました。
わたしは、「そうなんだな。」と思いました。人
や出来事に対する見方が少し変わると、わたしの
感じ方も変わっていききました。

今、わたしは、この学校が大好きです。わた
しの学校では、毎週金曜日の朝礼に「きずな君
コーナー」があり、そこで、友達のいいところ
を全校で発表しています。自分のいいところを
言ってもらえると、(この学校の一人として認
められているんだな。)と思います。わたしも、
みんなのいいところを見つけようと思つてやっ
ています。友達同士いいところを認め合うこと
で、優しい気持ちになり、下級生にも優しく接
することができます。

また、わたしの学校では、あいさつや返事を
しっかりとしています。友達や先生方には必ず、
それにプラスして地域の人や立ち番の人達にあ
いさつをする人も増えてきています。あいさつ
は、した人もしてもらった人も気持ちよくなる
もので、お互いのことを認め合う言葉のかけ合
いだと思います。

みんなが人のことを思う気持ちを持つと、よ
りよい学校、よい社会となると思います。「人



のこと」に含まれるのは、自分の仲良しばかりではありません。例えば、過去に悪いことをしてしまった人も含みます。犯罪は、確かに悪い

ですが、それをしてしまった人の全部が悪いことで埋め尽くされているわけではないと思います。一つでもいいところを見つけて、認め合い

支え合って、みんなが過ごしやすい明るい社会にしていきたいです。わたしもこの国のため、これからの社会のためにがんばりたいです。

中学校の部

島根県BBS連盟会長賞

「あいさつがひなぐ安心の輪」

奥出雲町立仁多中学校 二年 部へ 田た 光ひかり

「おはようございます。」

私の朝はあいさつから始まります。朝のあいさつを家族や地域の人にすることで学校でも気持ちよくあいさつができます。しかし、私は、知らない人にあいさつをすることが苦手で声も小さくなってしまいます。

私は、自分がよく知っている家族や地域の人へのあいさつはできていると思っていました。しかし、部活での練習会に、私一人で参加するときは、あいさつの声や返事が小さくなってしまいます。他の学校の人が礼儀正しくあいさつをしている姿に私はかっこよさを感じました。私も礼儀正しくあいさつをしたいと思いました。私にとつて大きな声であいさつをすることは苦手なことです。でも、勇気を出してお世話になる先生方や他の学校の人に大きな声で元気よくあいさつができました。それなら、返ってくるあいさつがとても気持ちよく感じました。学校の部活でも「先にあいさつをした方が気持ち良い」と先生に言われました。そこで私が

思ったことは、ただあいさつをするだけでなく人よりも先に自分からあいさつをした方がより

相手も自分も気持ちよく感じるのだなと思いました。また、先輩が元気よくあいさつをすることで先輩もまねをしてあいさつをしてくれると思います。これが続けていくことで先輩が後輩にそしてまた先輩がその後輩にあいさつをしてくれると思います。そして仁多中学校全体が元気よくあいさつができる生徒でいっぱいになると思います。あいさつには、みんなをつなげてくれる力があると私は気づきました。

しかし、世の中ではあいさつをしただけでつきまとわれたり、声をかけられたりするような事件が起きています。私は、このような事件をテレビや新聞で知り、驚きました。それを母に話すと、母は地域の会に出たときに、こんな意見が地域の方からあったと話してくれました。それは、「最近、子どもたちからあいさつの声が聞こえない。」という意見です。それには、誰にでもあいさつをしたらいけないという防犯

意識が高まり、あいさつが少なくなってきたのではないかとこの見方もありました。この田舎でもあいさつというコミュニケーションが希薄になりつつあることが残念だと思います。知らない人にあいさつをするのは危ないという意見もあるので、積極的にあいさつをしようと呼びかけにくくなってきている気がします。でも、私は、防犯には、地域の方とのコミュニケーションが必要だと思います。防犯について家族で話題になったときに、小学校で教わった「いかのおすし」の話になりました。地域の方と普段から顔見知りになっていると、助けてもらえる関係性ができているので、大きな声を出したり、知らせたりしたときに助けてもらえると思います。私にとつては、あいさつが私と地域の人をつないでくれるのだと気づきました。

私の体験から、あいさつは人と人とをつなぐ一歩となり、今までもこれからも私たちが生活していく中でとても大切な言葉だと改めて考えさせられました。そして、社会で起きている様々な事件を通して防犯意識をもちながらも地域の中でのコミュニケーションを大切にしていきたいと強く思いました。あいさつや人の心のふれあいの中で人と人がつながって、心痛む事件が今後起きないことを願います。

活動紹介

幼少期からの犯罪予防教育

ペープサートと腹話術



山中保護司による腹話術「桃太郎鬼退治」の一場面

近年、犯罪の減少により保護観察対象者を担当することなく任期を終わる保護司があり、保護司自身はもとより地域からの認知度・存在感が薄く「地域の力」の気運や保護司へのなり手が無い原因になつてはいないかと思えます。

保護司の主な仕事は「保護観察」「生活環境調整」「犯罪予防」があり、今、私たちは「犯罪予防」に重点を置き女性保護司を中心に更生保護女性会と連携して地域活動として取り組みを進めたいと考えます。

現在、掛合支部ではペープサートと腹話術活動をしています。今後は、雲南地区内に広め、幼稚園や、小学校で実践し、関係機関や家庭との連携をより深め地域に「犯罪予防」運動を推進したいと考えています。

「更生保護」に対し、より一層のご理解をいただき、新任保護司の発掘・推薦にご支援をいただきたく存じます。

十月二十六日(金)ホテル上代で開催した東部地区保護司代表者会議で発表し、大変好評をいただきました。



ペープサートとは

平面人形の一つ、日本で生まれ、育った「うちわ型人形劇(登場人物)」を描いて、中心に竹串を挟み、張り合わせて、周りをうちわ型に切り抜いて作ります。

竹串を持ち、表、裏クルクルと返し操作します。

視察研修に参加して

仁多支部 楠 京子

6月6日(水)～7日(木)雲南地区保護司会17名で笠松刑務所の見学をしました。刑務所がある羽島郡笠松町は、昨年、朝の連続ドラマの舞台になっていた岐阜県内に位置し、木曾川を挟んで愛知県に隣接しています。前日梅雨入りし、雨模様の中での移動と高速道路の工事による渋滞でひやひやしましたが、無事見学開始時間ぎりぎりの到着となり、胸をなで下ろしました。

施設の概要

昭和23年、紡績会社から工場や付属の建物、敷地の寄付を受け、作業内容も縫製等をするこ

とから始まり、現在名古屋管内の女性受刑者を収容する収容定員520名の施設です。
玄関で出迎えてくださった方が、青いビブスを身に着けておられ、この制服はこのようなものかと思いきや、「公共サービス改革法」に基づいて、見慣れた制服を付けておられる刑務官のほかに、ビブスを身に着けた民間の方が一部の業務を担っておられるとのことでした。具体的には、総務・警備業務の一部や受刑者に対

して行われる職業訓練、教育プログラムなどの一部業務について民間事業者のノウハウを活用しているとのことでした。

施設見学は、建物の外から収容者が七宝焼きや縫製作業をする様子を見たり、作業時間以外



の大半を過ごす居室を見たりしました。刑務所には、「みどり美容室」という一般の方が利用できる美容室がありました。職業訓練の美容科を経て資格を取得した受刑者が、カットは800円、パーマ&ブローは1600円で行ない、接客のスキルを学ぶ場になっていました。作業はその他に、ビル設備管理、介護福祉、ビルクリーニング、ビジネススキル、美容(ネイリスト)、客室清掃実務などの項目があり、刑務官や民間の専門家の指導も受けながら進めているようでした。
居室は、紡績工場時代の寮の形を留めており、棟自体は鍵がかかっているものの、居室ごとの扉には鍵がなく、廊下を挟んだ居室の前にある洗面台やトイレを利用するという形でした。これは他の刑務所にはない状況で、今後、通常の刑務所の形のように、棟自体はもちろん、各部屋も施錠し、それを実現するためにも、トイレを居室内に作る等の改修が待たれているようでした。

私が受けた印象

女子刑務所ならではの特徴として、初犯の受刑者と累犯の受刑者が同じ刑務所に措置されるという話がありました。男子は犯罪傾向や刑の長短で、措置される刑務所が異なるようにしてい

るので、「犯罪の責任の自覚と健康な心身を培
わせ、社会生活適応に向かわせるための改善指
導」が行いやすいが、女子刑務所の場合は、男
子のように「分類」がないのが特徴で、収容す
る棟を変えるなどの対応をしていかないといけ
ないという苦勞を伺いました。

また、男女関わらず、高齢者の割合が増えて
いるとのことでした。笠松刑務所は、20歳そこ
そこから、80歳半ばまで収容し、介護が必要な
受刑者には、同じ部屋の中で手助けをする形に
なっているが、十分とは言えず、刑務官自体の
対応も考える必要があり、種々の課題があると
いう話も印象的でした。

今回、保護司会の皆さんとの視察研修に初参
加し、夜の懇談会や宿舎の部屋での話、岐阜県
内各所の見学ととても実りの大きなものでし
た。この機会を得ることができたことに感謝し
つつ、今後の活動に少しでもつながるものにな
るようにしていきたいと思えます。



平成30年度更生保護事業関係者顕彰

(敬称略)

表彰種別	被表彰者氏名		
島根県知事感謝状	山本 勝昭		
中国地方保護司連盟会長表彰	松村 千弘	石飛由美子	川本 晃代
	陶山 隆樹	楠 京子	佐藤 幸男
松江保護観察所長表彰	清水 寛	立石 典夫	岡田 礼子
	伊藤志津江		
島根県保護司会連合会会長表彰	陶山 頼子		

新 旧 保 護 司 紹 介

退任保護司

発令年月日	氏 名	住 所
平成30年5月31日	なが せ こう 永 瀬 晃	雲南市掛合町多根
平成30年11月30日	まつ だ つとむ 松 田 勉	雲南市大東町仁和寺
	つぼ くら みつ あき 坪 倉 充 明	雲南市加茂町加茂中

新任保護司

発令年月日	氏 名	住 所
平成30年6月1日	はや みず まもる 早 水 守	雲南市掛合町多根
平成30年12月1日	なが と なお き 永 戸 尚 樹	雲南市大東町遠所
	うち だ ゆう し 内 田 祐 司	雲南市加茂町立原

保護司を終えて

掛合町 永瀬 晃

平成三十年五月三十一日付で定年を迎えました。雲南地区保護司会総会の席上、会長様から労いのお言葉など感謝のお言葉を賜りまた松江保護観察所においては、法務大臣からの感謝状の伝達があり、身に余る光栄なことで感激いたしました。

保護司になり、法律を守ることは勿論、誰

保護司退任にあたって

大東町 松田 勉

保護司に委嘱されて以来十八年、この度任期を迎え退任することになりました。小生経験もなく、勤めることができるのだろうかという不安な気持ちを持ちながらのスタートでしたが、緊張する中での保護観察担当、更生への任務の重さには自らを律すると同時に緊張感が離れませんでした。また本会の事務局を担当させていただき、更生保護サポートセンターの設置や社会を明るくする運動などの取り組みに携わることができたことは、貴重

からも信頼される人でなければと、自分を戒め、成長できたことに感謝しています。

生活環境調整や保護観察を担当し、そこに至った経緯にふれたとき、心痛む思いもして来ました。地域を含めた活動の必要性も感じて来ました。これからは、市民の一人として地域社会に理解が進み、保護司の活動が広がるよう協力して行けたらと思っています。

今日までご指導賜りました皆様に、心から感謝をいたしますとともに、犯罪や非行のない明るい社会が来ることを願っています。

な体験となり深く感謝しています。これも保護観察所長様はじめ雲南地区保護司会のみなさん、関係者の皆様のご指導ご鞭撻をいただき、さらに多くの皆様のご理解ご協力を賜りましたことに他ならず感謝に堪えません。

急速に進む情報化国際化のなか、国地方を問わず複雑化激化する社会にあつて、更生保護の役割はさらに高まっています。更生保護の精神が広く認識され、なかでも非行や犯罪を予防する啓発活動や地域の諸活動においてあることは云うまでもありません。

保護司会の発展を祈り、退任のあいさつをいたします。



平成30年度 社会を明るくする運動 メッセージ伝達式

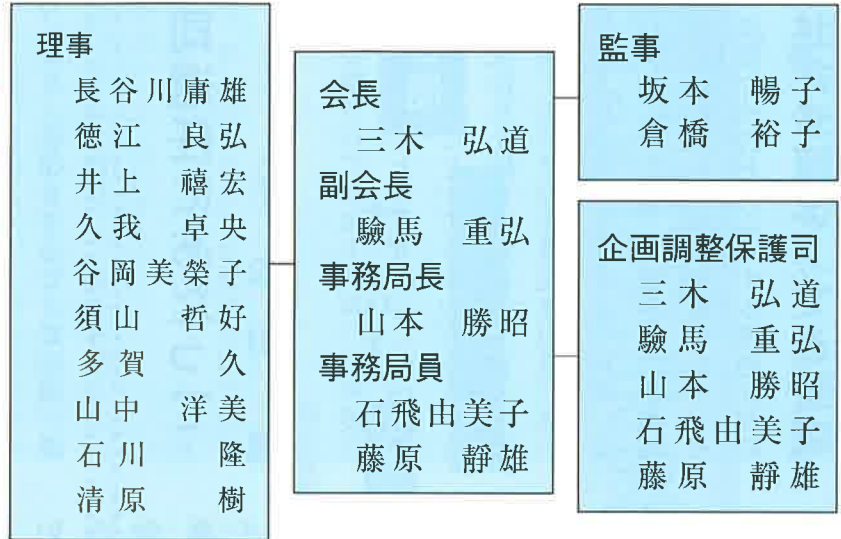
平成30年7月2日



速水市長に安倍晋三内閣総理大臣メッセージを伝達する三木会長と街宣活動する皆さん

雲南地区保護司会

組織図



編集後記

相手は誰でもよかった…不可解な通り魔事件や、まさかあの人か…というような事件が目立ちます。動機はよく分かりませんが、心の歪みに起因することは確かでしょう。今一度、地域の人と人との繋がりを深め、本号で紹介したような幼児・小学生を対象とした活動などを積み重ねることが、犯罪や非行のな

い、誰もが笑顔で暮らせる地域づくりに繋がると思います。(石川)

保護司

保護司数 51名(H31.2.1現在)

【雲南市】 (大東町) ○井上 禧宏 三木 弘道 加本 恂二 土谷 文江 藤原 茂 野津 位登 佐々木 睦美 永戸 尚樹 (加茂町) ○久我 卓央 岡田 礼子 内田 祐司 (木次町) ○谷岡美 榮子 村上 秀道 驗馬 重弘 坂本 暢子 藤原 静雄 佐藤 幸男 斎藤 静代 妹尾 和明	(三刀屋町) ○須山 哲好 陶山 隆樹 清水 寛 陶山 頼子 鳥屋尾 寛子 楠 縁人 (吉田町) ○多賀 久 堀江三智江 (掛合町) ○山中 洋美 落合 慧 松村 千弘 石飛由美子 早水 守	川本 晃代 楠 京子 立石 典夫 (横田) ○徳江 良弘 高松 千草 安部 陽子 若月 薫 安部 茂寿
	【奥出雲町】 (仁多) ○長谷川 庸雄 山本 勝昭 森合 俊雄 千葉 哲之	【飯南町】 (頓原) ○石川 隆 熊谷 高暢 伊藤志津江 (赤来) ○清原 樹 倉橋 裕子 高橋 浩文 永田 一博

○印は支部長



- 編集委員長 藤原 静雄
- 編集委員 石川 隆
- 編集委員 若月 薫
- 編集委員 岡田 礼子
- 編集委員 楠 京子